あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.219　2018.11.1

博物館で考える
松本のまちの未来

親子で松本のまちを考える体験

新博物館の先行体験を実施しました。

2023年秋の開館を目指し新博物館（松本市基幹博物館）の設計を進めています。9月22日と23日に開催された学都フォーラムの会場で、「新しい博物館をご紹介！」と題して子ども向けコンテンツの先行ワークショップを開催しました。多くの子どもたちが松本の未来のかたちを考えてくれました。

もくじ

誌上博物館 ◇ 山辺学校と開智学校……2
博物館TOPICS ◇ 新しい博物館をご紹介！……3
◇ 第9回　復活　話をきく会が　開催されました……3
博物館ニュース ◇ 秋季企画展「松本平の古墳時代」……4
ガイドコーナー ◇ はんてんぼく……4

美しく生きる。
健康寿命延伸都市・松本

重文旧開智学校校舎 Tel.0263-32-5725

山辺学校と開智学校

現在、長野県宝旧山辺学校校舎は、来年度のリニューアルオープンに向けて、整備が進められています。今回の誌上博物館では、旧山辺学校校舎で行われた教育について、開智学校と比較しながらみてみたいと思います。

旧山辺学校校舎

山辺学校は、明治19年（1886）の小学校令公布に合わせて、兎川学校・盛徳学校・桐原学校など、6校2派出所が統合・再編され、誕生しました。現在残っている和風と洋風の混ざった擬洋風の校舎は、明治18年に兎川学校の新校舎として建てられたものです。

校舎の形は、旧開智学校校舎とよく似ています。旧山辺学校を施工したのは、地元の大工棟梁佐々木喜重です。喜重は、旧開智学校校舎や洗馬学校など、立石清重の建設工事にいくつか参加していました。こうした経緯から、旧山辺学校校舎は、旧開智学校校舎をモデルとしているといわれています。ただ、工事時期の時代背景を反映し、旧開智学校校舎よりはシンプルに作られています。

山辺学校の教育

山辺学校の教育は、基本的には公立小学校としての枠に収まっていたと考えられます。兎川学校の開校当初の授業は、「綴字・習字・修身口授・単語暗誦」などがあり、学制の規定に沿った内容でした。明治36年の教科書国定制の成立以降は教育内容の全国画一化が進むため、山辺学校の教育内容も、国数社理修身を中心としたものであったと考えられます。学校行事をみても、運動会が明治36年、学芸会（唱歌や演説など）は同41年、教員同士の研究授業は明治40年に始まっており、いずれも開智学校とほぼ同時期に開始されています。また、明治38年から7年間、岡田・本郷・中山と山辺の4小学校で、共通試験を課して他校との成績比較を行っているのは興味深い点です。山辺学校も開智学校と同じく、その時々の教育界の風潮をつかみ、積極的に学校教育に取り込んでいたといえます。

明治時代の山辺学校

山辺学校と開智学校の意識の違い

山辺学校と開智学校の大きな違いも確認できます。それは、山辺学校は“村の学校”、開智学校は“町の学校”という意識のもと運営されていた点です。山辺学校では、明治30年から近隣の山で植林を行っています。その目的は、植林規定に「林制の実験的練習をなさしめ且つ将来当校財産の一部を補うを以て目的とする」とあります。大正時代、山辺学校が村民に植林事業への理解を求めた書面では、植林を進めれば、洪水や干ばつに悩まされることもなくなり、「村のために此上もない幸福」であると述べています。山辺学校のある山辺村は、生業の中心が農業であり、毎年6月には農繁休業が設けられるなど、村の学校という性格が色濃く見受けられます。

対して、開智学校は町中にあった学校です。大正9年（1920）の林間保育の参加者募集文には「（暑中休暇を）蒸し暑い且つ込み入った町の中に暮らすよりは、新しい綺麗な空気を吸って～」とあり、松本は発展した町であるといった意識を持っていることが見受けられます。明治末期頃の職員意見書には、「町場ノ児童ニアリテハ最早襟巻、ショールヲ使用スル者ヲ認メルガコレハ誠ニ面白クナイト思フ」といった言葉が書かれており、開智学校が町場の学校という意識は、明治時代から形成されていたと考えられます。

このように、山辺学校と開智学校は、村の学校－町の学校という意識のもと運営されてきました。幸運なことに、わずか数キロの距離に、村と町の学校が古い校舎はもとより、教育資料も含めて残っています。今後も、こうした比較の視点をもって両校の教育資料の調査に当たれば、松本の近代教育の実践の歴史がより具体化するでしょう。こうした調査を進めるには、山辺学校の教育の様子をより深く調べていかなければなりません。両校に学んだ方で、特に勉強の内容に関しての思い出をお持ちの方は、博物館までぜひご連絡ください。

（重要文化財旧開智学校校舎　学芸員／遠藤正教）

松本市立博物館 Tel.0263-32-0133

新しい博物館をご紹介！

9月22日と23日に開催された第7回学都松本フォーラムで、設計中の新博物館（松本市基幹博物館）のPRと子ども向けコンテンツの先行体験を実施しました。

新博物館では、小学校低学年以下の子どもを主な対象に、親子のコミュニケーションを促しながら体験を通して松本らしさを学ぶことができる、「子ども向け展示室」を設置する計画です。そこでは、子どもの五感を刺激するアイテムのほか、松本ゆかりのものとの背比べや県産材を使用した木製玩具、松本のまちを親子で考えるコンテンツなど、市内外の利用者が松本を感じることができるアイテムを導入する予定です。

今回のイベントでは、松本一本ネギや七夕人形「カータリ」との背比べのほか、県産材のアカマツを使用した玩具や、松本まちづくりの体験コンテンツの先行体験を行いました。2日間で300人を越える親子の参加があり、新しい博物館への期待を感じるとともに、多くの意見をいただくことができました。こうした意見を反映させながら、さらに設計を進めていきます。

（松本市立博物館　基幹博物館建設担当（学芸員）／千賀康孝）

新博物館の外観イメージ

松本まちづくりの体験コンテンツ

第9回　復活　話をきく会が開催されました

9月8日（土）、講演会「復活　話をきく会」を開催しました。9回目を迎える今年は「“身代わり”という文化装置―ものぐさ太郎譚を手がかりに―」と題して、国際日本文化研究センターの小松和彦所長にご講演をいただきました。

『物ぐさ太郎』（国立国会図書館蔵）

「ものぐさ太郎」は御伽草子に収録されている、信濃国筑摩郡あたらしの里（現・松本市新村と推定）から始まる民話です。村で仕事もせず養われていた太郎が、村人の代わりに都での労働へ駆り出され、立身出世していく様をユーモラスに描いています。ところが、小松先生によればこの話は、村の外からやってきた「筋目なき者」や「乞食」といった身分の人間を、村に災厄が起きた場合に、身代わりとする存在として養っていた中世の村の現実を反映したものだということです。太郎は最終的には天皇の孫であることが判明し、「信濃の中将」として凱旋しますが、小松先生は様々な事例を挙げながら、村の外界にある者たちが村の犠牲になる一方で、それを克服し、長者として村の上に立つケースも存在することを紹介されました。「乞食」「非人」と「貴人」「長者」、「穢」と「清」などの対称的な存在が、「身代わり」という村の政治的機能を介して逆転する（場合もある）、ということが非常に興味深く感じました。

妖怪には民俗学的な背景があるという「妖怪学」で高名な小松先生のご講演ということもあって、当日は、60人近い参加者が集まりました。講演の後にもいくつか質問が挙がりましたが、小松先生がその一つ一つに大変丁寧に答えていらしたのが印象的でした。

小松先生の講演の様子

（松本市立博物館　学芸員／赤羽裕幸）

考古博物館 Tel.0263-86-4710

秋季企画展「松本平の古墳時代」

日本各地で巨大な墳丘墓が盛んに造られた古墳時代。松本市域でも発掘調査により、古墳時代前期の前方後方墳である弘法山古墳を代表とし、山辺の針塚古墳や南方古墳、浅間温泉の桜ヶ丘古墳、そして、中山考古学の始まりともなる中山古墳群や柏木古墳など多くの古墳が発見されています。また、古墳からは多くの副葬品が出土し保管されています。

平田里古墳　水鳥型埴輪

考古博物館では、常設展示にて弘法山古墳や桜ヶ丘古墳から出土した玉類や鉄剣、鏡などの副葬品を展示しています。

今回の展覧会では、古墳時代をテーマに、普段は紹介する機会の少ない遺跡から出土した副葬品などの収蔵資料を展示します。また、長野県内の古墳と松本平の古墳を比較するパネルなどで、古墳時代の松本平がどのような場所であったのかを紹介します。

南方古墳　装身具

（松本市立考古博物館 / 花村圭介）

秋季企画展「松本平の古墳時代」

［会　期］11月3日㊏㊗～12月2日㊐
※月曜休館、午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
［会　場］松本市立考古博物館
［料　金］通常観覧料（大人200円、中学生以下無料）

ガイドコーナー はんてんぼく

※ 申込み・問合せは各館へ電話で

歴史の里から ☎0263-47-4515

歴史の里ナイトミュージアム

普段目にすることのない、夜の歴史の里をお楽しみください。

日　時　11月3日（土）、4日（日）いずれも午後7時まで。入館は午後6時30分まで。
料　金　通常観覧料（大人400円、中学生以下無料）
その他　懐中電灯などをご持参ください。

親子はた織り体験講座

はた織り機を使って裂き織りの作品を作ります。

日　時　11月25日（日）
午前10時～正午、午後1時～3時
対　象　小学生以上の親子2人1組
定　員　各5組
料　金　各1組1,000円
講　師　川上裕子氏
申込み　11月6日（火）午前9時から電話で受付開始

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

まる博 de ウォーキング

市民学芸員が晩秋の松本のまちの魅力をご案内します。自分の足で、松本の歴史と文化に触れてみませんか。

日　時　11月18日（日）午後1時30分～午後4時
会　場　松本市立博物館前に集合後、市内散策
料　金　無料
定　員　15名（先着順）
申込み　11月6日（火）午前9時から電話で受付開始

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展「台湾とアイヌの工芸―衣装・木工・装身具―」

深い信仰のかたちなどがあらわれた、それぞれの民族の衣装や木工品などを展示します。

会　期　12月11日（火）～3月10日（日）※月曜休館、休日の場合はその翌日、年末年始休館
会　場　松本民芸館
料　金　通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）

民芸講演会「私に民芸が教えてくれたこと―これからの作り手の課題」

木曽平沢在住の漆芸家である佐藤阡朗氏から、民芸の今昔とこれからの作り手への希望などについてお聞きします。

日　時　11月11日（日）午後1時30分～3時
会　場　松本民芸館
料　金　通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）
定　員　30名
講　師　佐藤阡朗氏　漆芸家、日本民芸館展審査員
申込み　松本民芸館へ電話で

体験講座「しめ飾り作り」

お正月を迎える、しめ飾りを作ります。「わら文化」を学んでみませんか。

日　時　12月16日（日）午前9時30分～正午
会　場　松本民芸館
料　金　300円（材料費）、通常入館料別途
定　員　10人
対　象　初心者対象、小学生以上
講　師　長野県民藝協会員　竹下賢一氏
申込み　12月5日（水）午前9時から電話で受付開始

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

そば打ち体験教室

日　時　11月25日（日）午前9時～正午
会　場　馬場家住宅
料　金　800円
定　員　20名
その他　馬場家住宅前ではお菜取りまつりが開催されます。
申込み　11月6日（火）午前9時から電話で受付開始

馬場屋敷ピアノリサイタル

江戸時代の民家の中で、120年前のピアノの音色を楽しんでみませんか。

日　時　12月15日（土）午後2時～
会　場　馬場家住宅
入場料　無料
演奏者　ヤスヨ・テラシマ・ヴェアハーン氏

昨年度のピアノリサイタルの様子

松本平の御柱展

松本地方に正月の風習として残る「御柱」の行事を紹介します。

会　期　12月1日（土）～1月20日（日）※月曜休館、休日の場合はその翌日、年末年始休館
会　場　馬場家住宅
料　金　通常観覧料（大人300円、中学生以下無料）

あとがき

早いもので今年もあと2か月です。そして平成もあと半年ほどになりました。一応、昭和生まれですが、小さいころから慣れている「平成」を使わなくなると思うと、変な感じがしますし、さびしい気もします。

（M.E）

あなたと博物館 No.219
発行年月日/平成30年11月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL：http://www.matsu-haku.com
e-mail：mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
印刷 川越印刷株式会社